

平成 23 年 1 月 11 日
福祉部高齢社会対策課

国・東京都の現況（地域貢献につながる社会参加の促進）

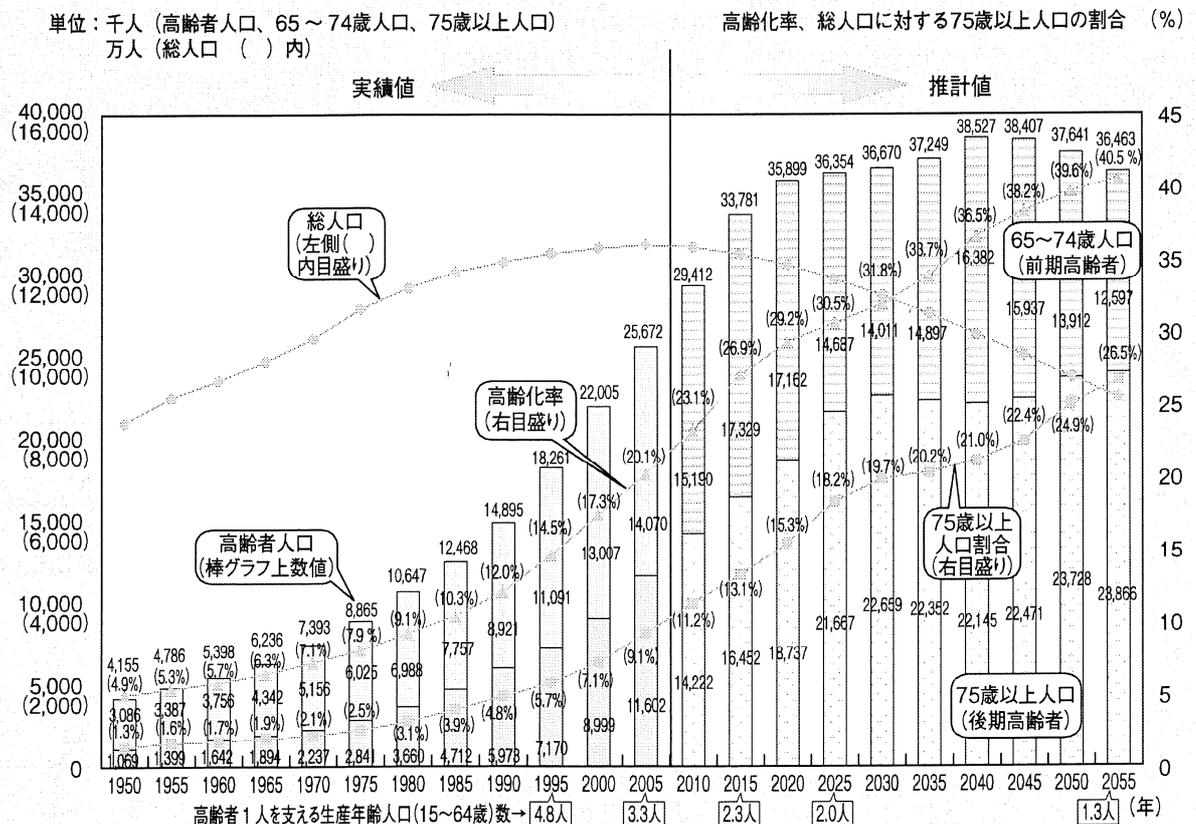
1 高齢化の状況、推計（全国・東京都）

(1) 全国の高齢化率推移と将来推計

● 4 人に 1 人が高齢者の社会は目前

- ① 我が国の総人口は、今後、長期の人口減少過程に入る一方で、高齢者人口は今後、いわゆる「団塊の世代」が 65 歳以上となる平成 2015 年は 3,000 万人を超え、「団塊の世代」が 75 歳以上となる平成 2025 年には 3,500 万人に達すると見込まれている。その後も高齢者人口は増加を続け 2042 年に 3,864 万人でピークを迎え、その後は減少に転じると推計されている。
- ② 総人口が減少するなかで高齢者が増加することにより高齢化率は上昇を続け、2013 年には高齢化率が 25.2% で 4 人に 1 人となり、2035 年に 33.7% で 3 人に 1 人と予想されている。

図表 1 高齢化の推移と将来推計



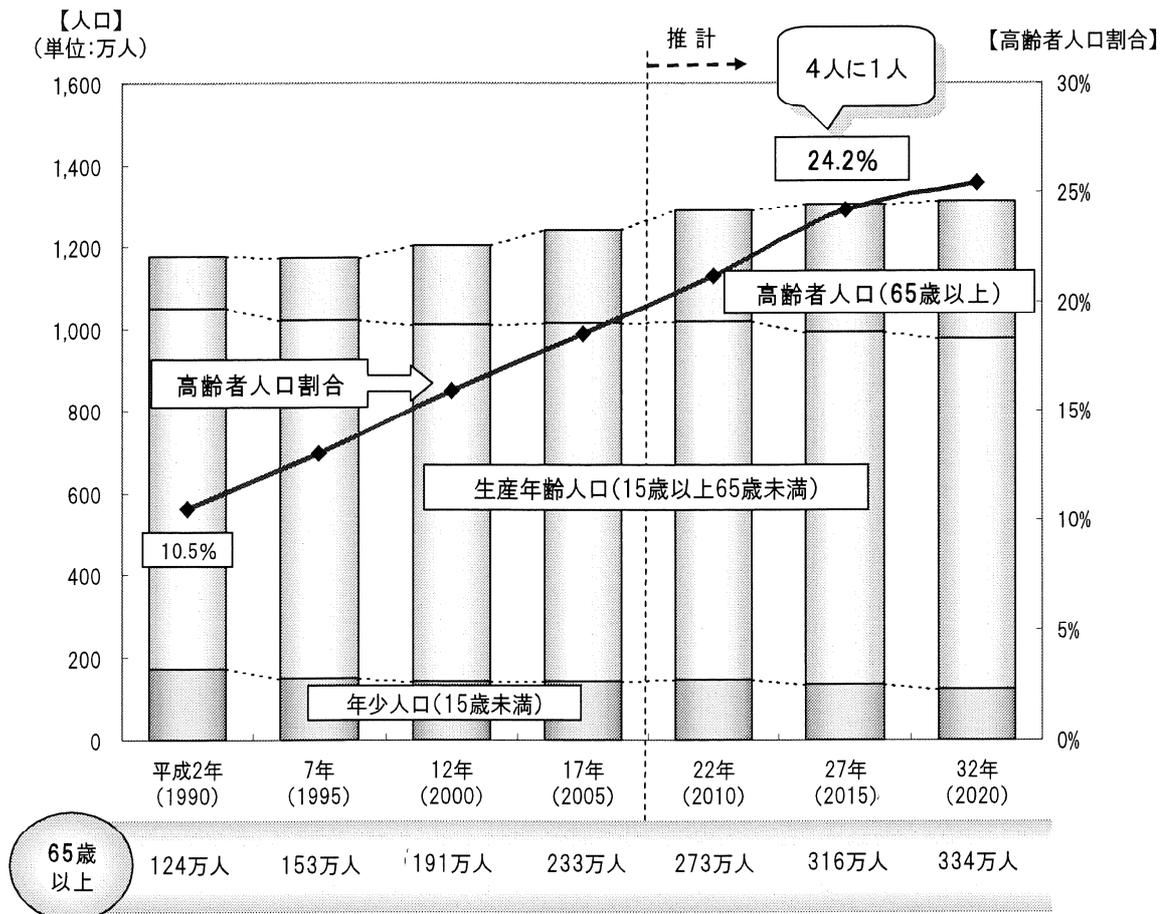
出典：平成 22 年版 高齢社会白書／内閣府

(2) 東京都の高齢化率推移と将来推計

● 5年後には東京都でも4人に1人が高齢者

東京都の人口構造と高齢者人口の推移を見ると、高齢者人口は急増し、団塊の世代全員が65歳以上を迎える平成27(2015)年には300万人を超え、都民のおよそ4人に1人が65歳以上の高齢者になると予想されている。

図表2 人口構造と高齢者人口割合の推移<東京都>



出典：「団塊世代・元気高齢者地域活性化推進協議会」最終報告書／東京都

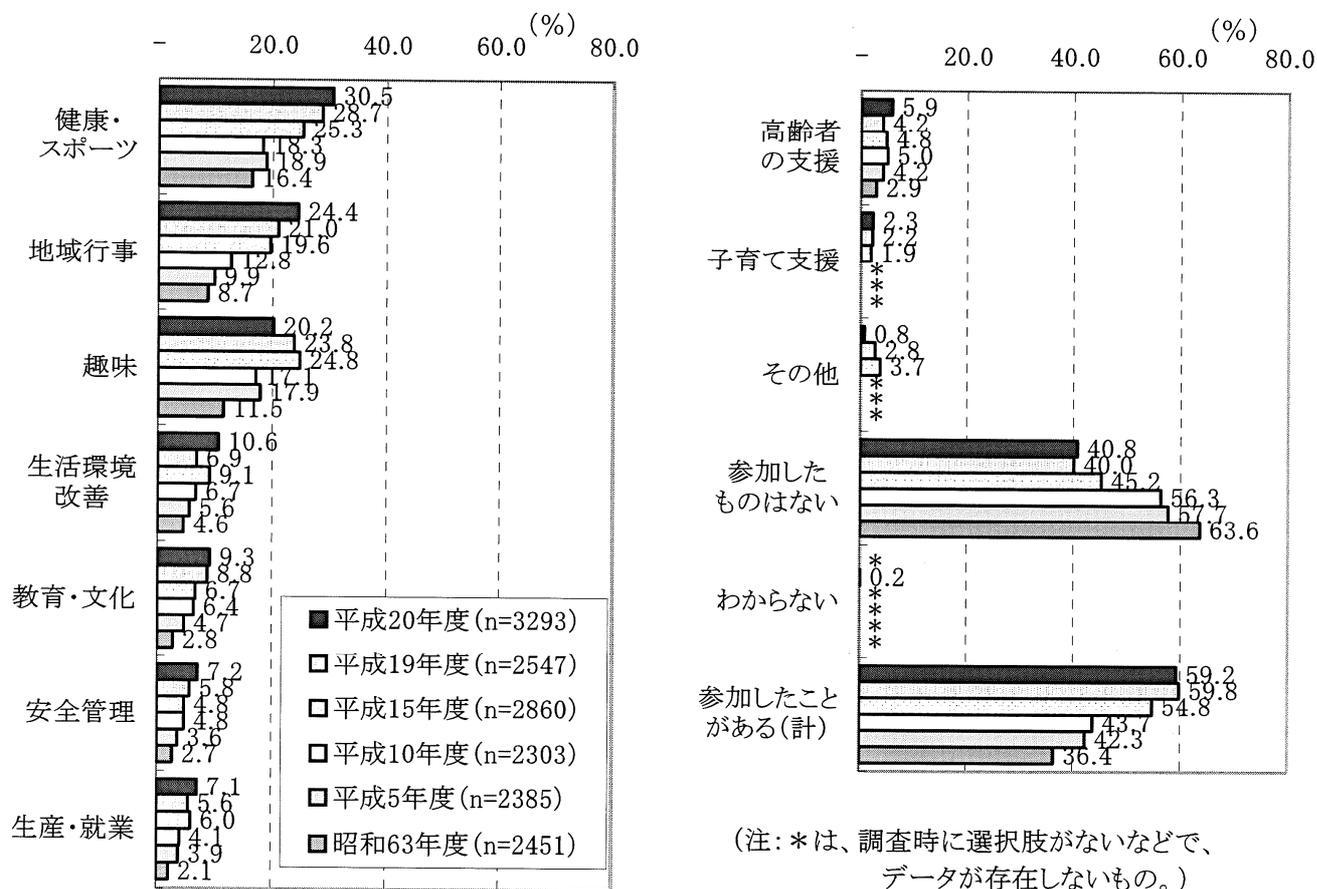
2 元気高齢者の社会参加の状況

(1) 地域活動への参加状況

●地域社会への貢献となる活動への参加率は低い（図表3）

- ① 総数では「健康・スポーツ」が30.5%で最も高く、以下、「地域行事」が24.4%、「趣味」が20.2%、「生活環境改善」が10.6%、「教育・文化」が9.3%などと続いている。
- ② 時系列にみると、全体的に参加比率が上昇傾向にあり、とりわけ「健康・スポーツ」「地域行事」ではそのような傾向が強い。「参加したものはない」は、昭和63年度調査では63.6%を占めていたが、徐々に低下し、今回調査では40.8%となっている。
- ③ 健康・スポーツ等、自己啓発・健康づくりを目的とする活動に比べ、地域社会への貢献となる活動への参加傾向が低い。

図表3 参加している社会活動



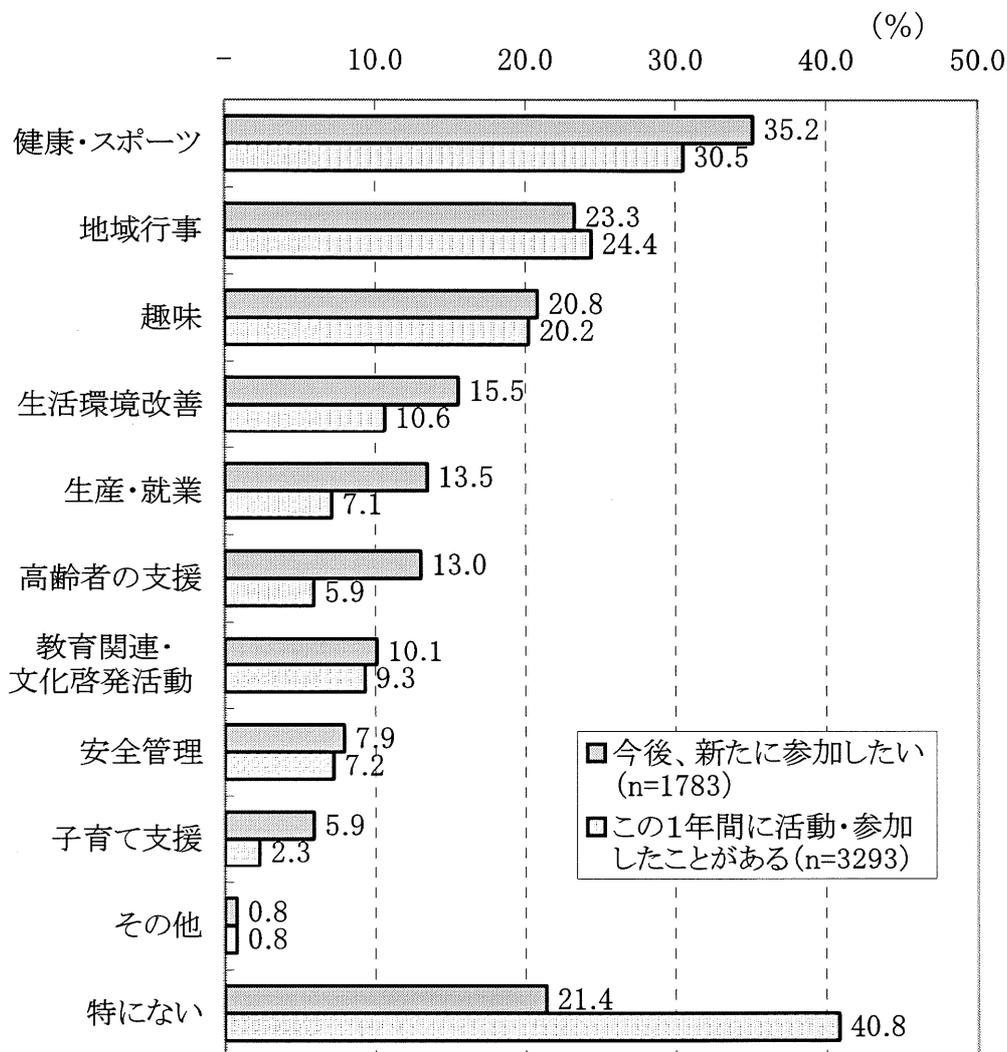
出典：平成20年度高齢者の地域社会への参加に関する意識調査結果／内閣府

(2) 今後の参加意向

●一方、「高齢者の支援」など地域社会への貢献となる参加意向が高まっている（図表4）

- ① 「今後、新たに参加したいと思われる活動」について尋ねたところ、「健康・スポーツ（体操、歩こう会、ゲートボール等）」が35.2%で最も高く、以下、「地域行事（祭りなどの地域の催しものの世話等）」が23.3%、「趣味（俳句、詩吟、陶芸等）」が20.8%、「生活環境改善（環境美化、緑化推進、まちづくり等）」が15.5%、「生産・就業（生きがいのための園芸・飼育、シルバー人材センター等）」が13.5%などと続いている。
- ② 「生産・就業」や「高齢者の支援」など地域社会への貢献となる活動は、絶対数としては多くないものの、この1年間に参加した割合よりも、今後新たに参加したい割合が高くなっている。

図表4 今後参加したい活動



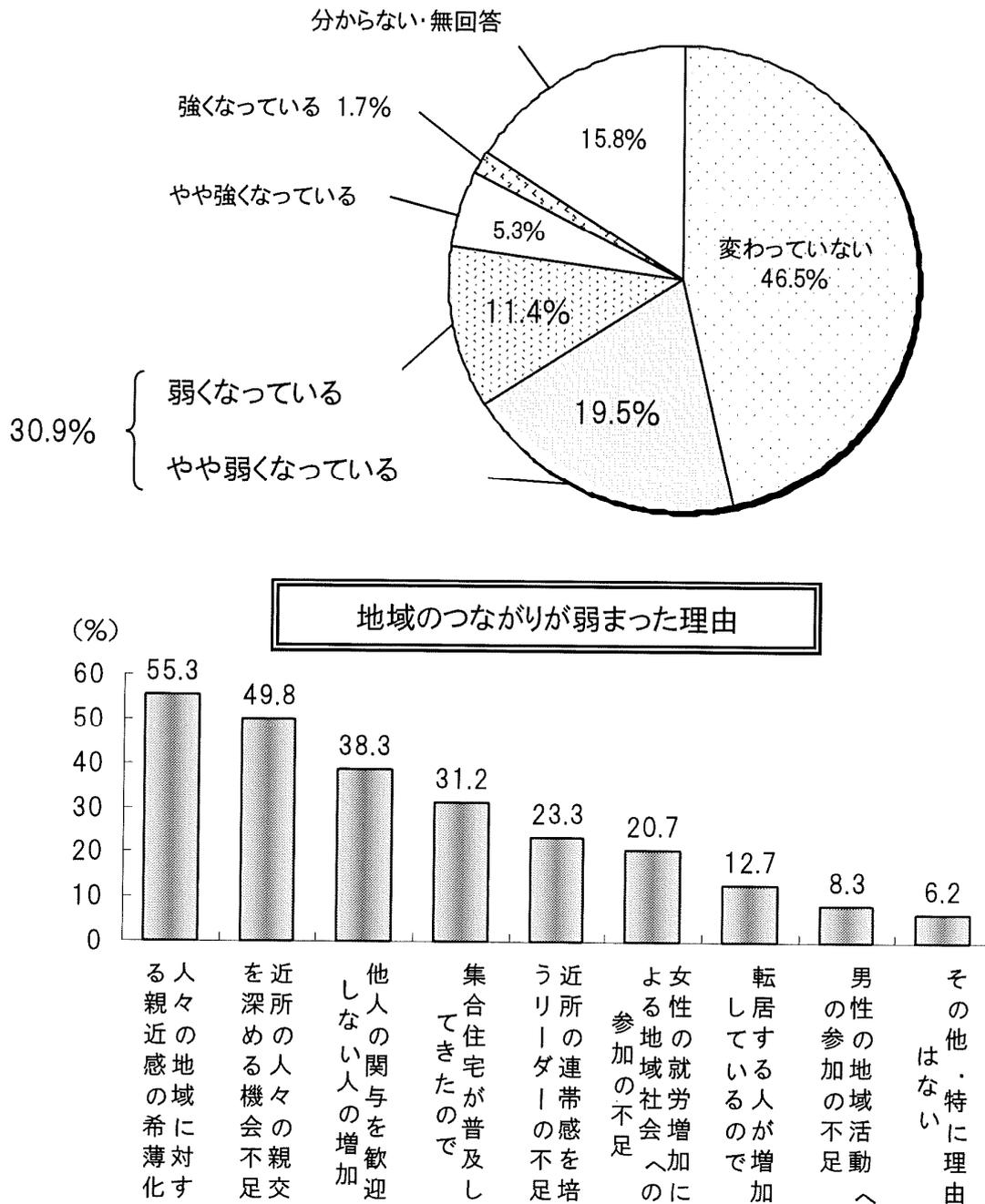
出典：平成20年度高齢者の地域社会への参加に関する意識調査結果／内閣府

(3) 高齢者と地域のつながり

●地域社会の支え合い機能の低下

約3割の人が10年前と比べて地域のつながりが弱くなっていると考えており、その理由として、人々の地域に対する親近感の希薄化や近所の人々の親交を深める機会不足などを挙げている。

図表5 地域のつながりの弱まりとその理由



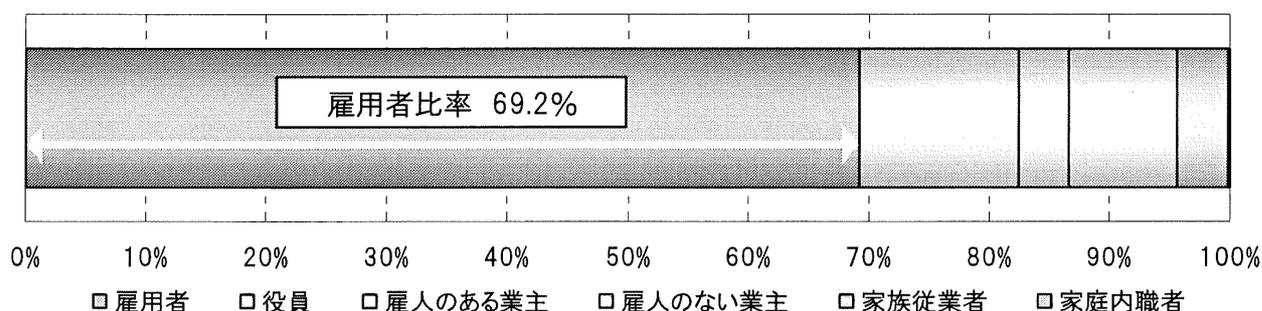
出典：「団塊世代・元気高齢者地域活性化推進協議会」最終報告書／東京都

●地域コミュニティが形成されにくい東京

特に東京都は、就業している団塊の世代やその周辺世代の約7割がサラリーマン世帯となっている。サラリーマンは職住が分離しており、地域との結びつきが弱くなりやすい。また、急激な都市化の影響等により、核家族世帯や単独世帯が多い。これらの要因により、地縁・血縁のつながりが希薄化し、地域コミュニティが他の地域と比べて形成されにくい状況になっており、地域社会の支え合い機能が低下している。(図表6)

地域社会の支え合い力が低下することで、防犯、防災などの安全・安心の確保、一人暮らし高齢者や認知症高齢者の見守り、子育て世代の支援など、地域の抱える課題に適切に対応できるなくなるおそれがある。

図表6 団塊の世代やその周辺世代の雇用者比率<東京都>



資料:総務省「平成17年国勢調査」より作成
55～59歳(平成21年では59～63歳に相当)の雇用者比率

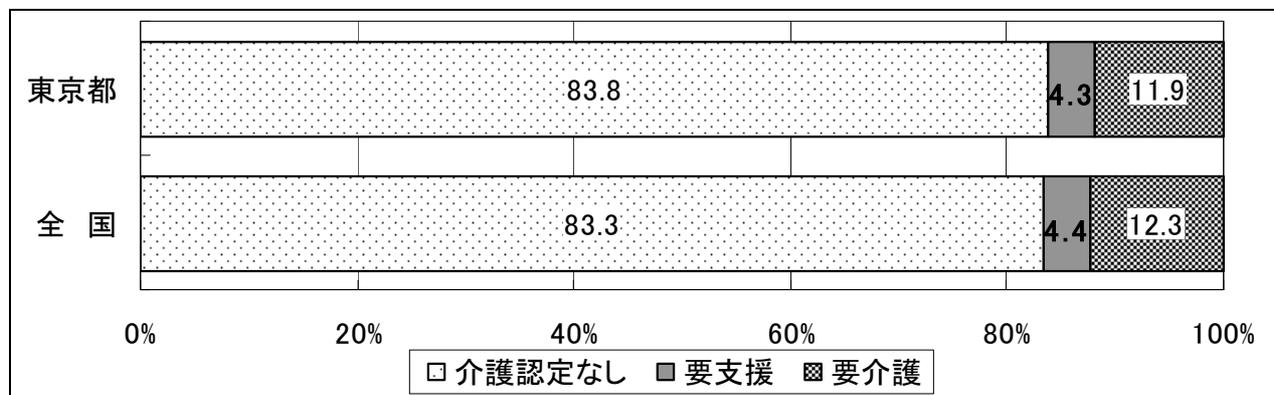
出典:「団塊世代・元気高齢者地域活性化推進協議会」最終報告書/東京都

3 元気でいきいきと暮らす団塊の世代や元気な高齢者の存在

● 8割強が要介護認定なし

65歳以上のうち8割を超える方が介護保険の介護認定を受けていない元気な高齢者である。

図表7 東京都・全国の要介護認定者の状況

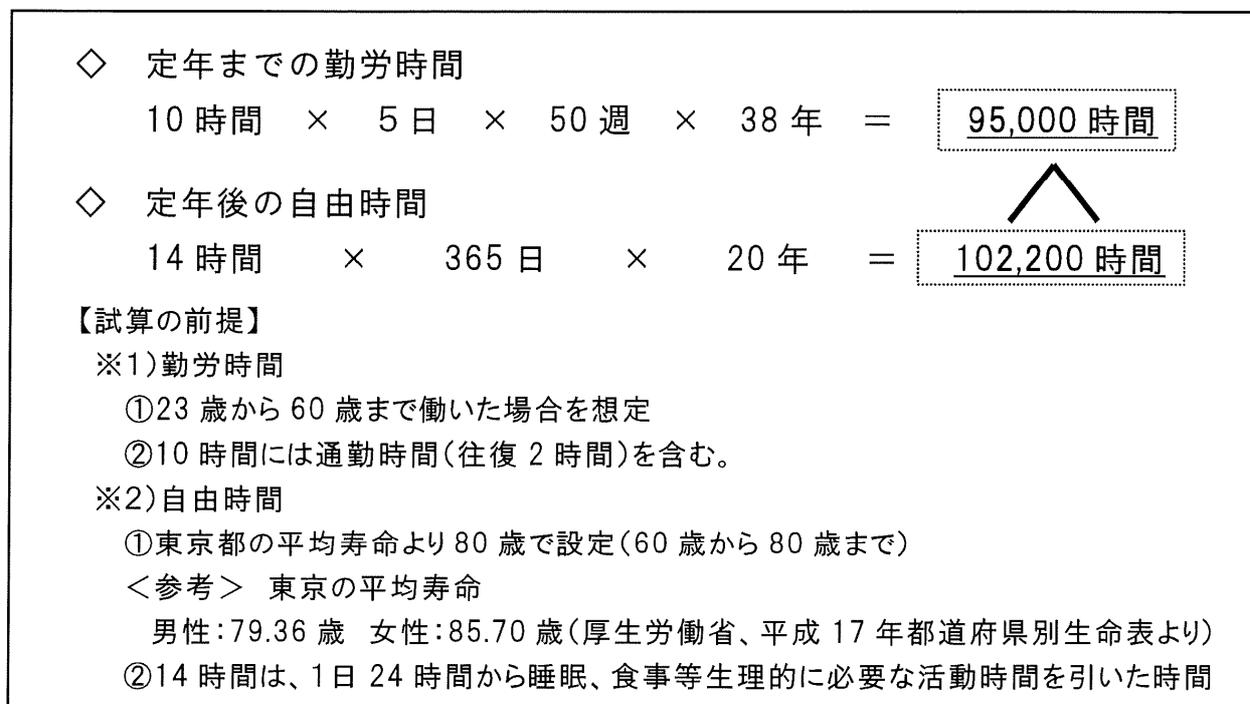


資料：介護保険事業状況報告（平成22年10月 東京都、全国）

● 定年後の自由時間は、定年までの労働時間よりも長い

仮に80歳まで健康で過ごした場合、定年後の自由時間は定年まで費やした総労働時間よりも多いという試算もある。退職後の人生を豊かに過ごすためにも、新たな生きがいがづくりが重要である。

図表8 定年までの勤労時間と定年後の自由時間の比較（試算）



出典：「団塊世代・元気高齢者地域活性化推進協議会」最終報告書／東京都

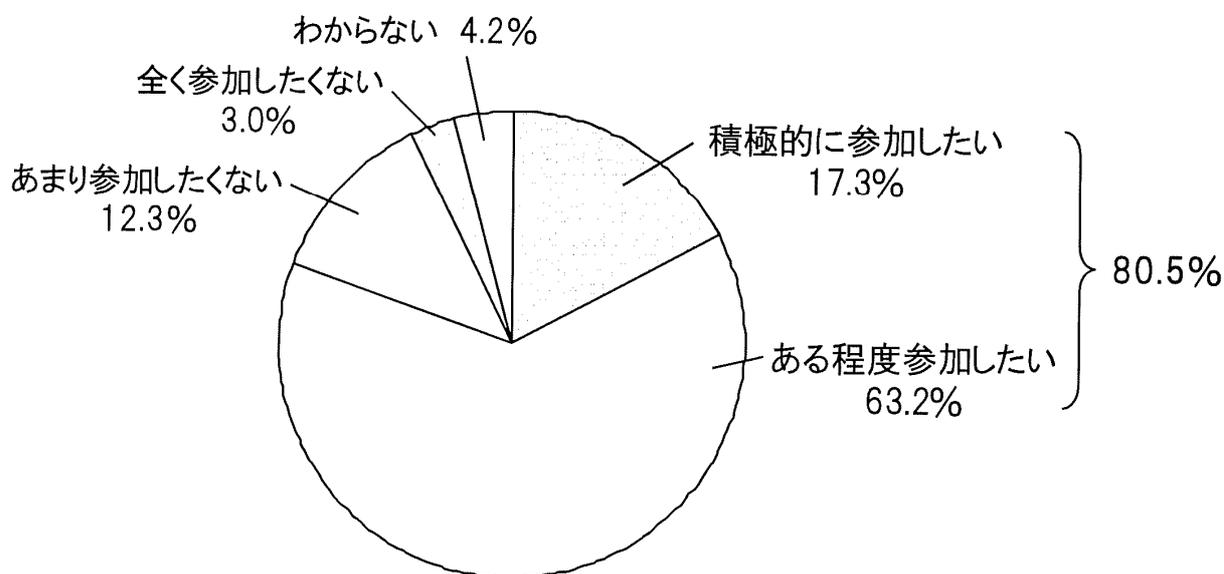
4 地域活動への参加の促進

(1) 団塊の世代や元気な高齢者の参加意欲の高まり

●団塊の世代や元気な高齢者の社会参加に対する意欲と地域の期待

- ① 改正高齢者雇用安定法の施行などにより、団塊の世代の多くは、当面は働きたいという希望が高いものの、今後は退職に伴い生活の中心が会社から地域社会へ移っていく。
- ② 都政モニターアンケートによると、8割を超える人が自身の高齢期には、地域活動や社会貢献活動に今後参加したいと回答しており、こうした活動への高い参加意欲が伺える。
- ③ 今後は、仕事を通じて得てきた充実感や達成感を、地域活動や社会貢献活動という新しいフィールドにおいて充足し、自己実現を図りたいと考える人が増えてくると考えられる。

図表 9 地域活動・社会貢献活動への参加意欲<東京都>



資料：東京都「平成 20 年度第 3 回インターネット都政モニターアンケート」より作成

団塊の世代を含め、これから高齢期（定年退職後、定年がない場合は 60 歳以降）を迎える人に対して、自身の高齢期に地域活動・社会貢献活動に参加したいと思うか聞いたもの

出典：「団塊世代・元気高齢者地域活性化推進協議会」最終報告書／東京都

(2) 地域活動への興味

●60 歳を超えると自分の住む地域に密着した活動に

- ① 一方で、年齢層による特徴も見ることができる。都政モニターアンケートによると、50 歳代は、高齢者・障害者支援や子育て支援等に関心が高い特徴が見られる。要因として、この時期に自分の親の介護や子供の養育等が身近にあることが推測される。
- ② 60 歳以上になると、50 歳代で6位だった「町内会・自治会活動」「地域のまちづくり」が、2・3位と大きく順位を上げている。年齢が高くなるにつれ、より身近な地域活動への関心が高くなる傾向がある。

図表 10 地域活動への興味

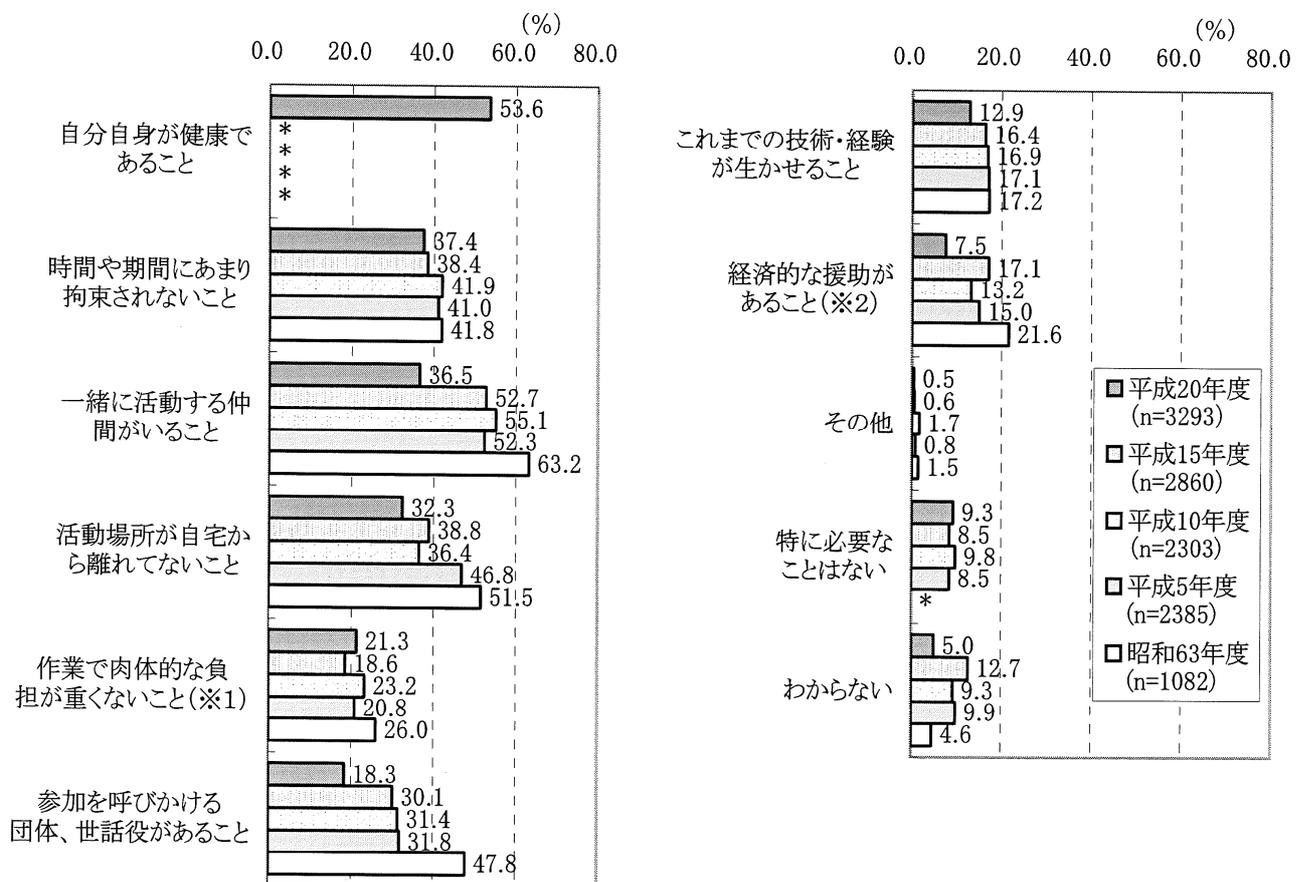
	興味のある地域活動等の内容	
	50歳代	60歳以上
第1位	文化・スポーツ・レクリエーション (53.1%)	文化・スポーツ・レクリエーション (53.2%)
第2位	高齢者・障害者支援 (35.9%)	地域のまちづくり (40.4%)
第3位	環境保護活動 (34.4%)	町内会・自治会活動 (36.2%)
第4位	国際交流・国際親善 (32.8%)	環境保護活動 (35.1%)
第5位	子育て支援等 (29.7%)	高齢者・障害者支援 (25.5%)
第6位	町内会・自治会活動 (25.0%)	国際交流・国際親善 (23.4%)
第7位	地域のまちづくり (25.0%)	防犯や交通安全 (23.4%)
第8位	お祭りや地域行事 (18.8%)	子育て支援等 (22.3%)
第9位	防犯や交通安全 (15.6%)	お祭りや地域行事 (13.8%)

出典：「団塊世代・元気高齢者地域活性化推進協議会」最終報告書／東京都

(3) 地域のための活動を行う必要条件

- ① 「地域の奉仕活動に実際に参加するための条件」について尋ねてみると、総数では「自分自身が健康であること」が53.6%で最も高く、以下、「時間や期間にあまり拘束されないこと」が37.4%、「一緒に活動する仲間がいること」が36.5%、「活動場所が自宅から離れていないこと」が32.3%、「作業で肉体的な負担が重くないこと」が21.3%などとなっている。
- ② 時系列でみると、「一緒に活動する仲間がいること」「活動場所が自宅から離れていないこと」「参加を呼びかける団体、世話役があること」などが低下し、今回調査で設定された「自分自身が健康であること」が最も高い結果となった。

図表 11 地域のための活動を行う必要条件



(注：*は、調査時に選択肢がないなどで、データが存在しないもの。)

※1は、平成15年度までは、「軽作業程度の労働であること」

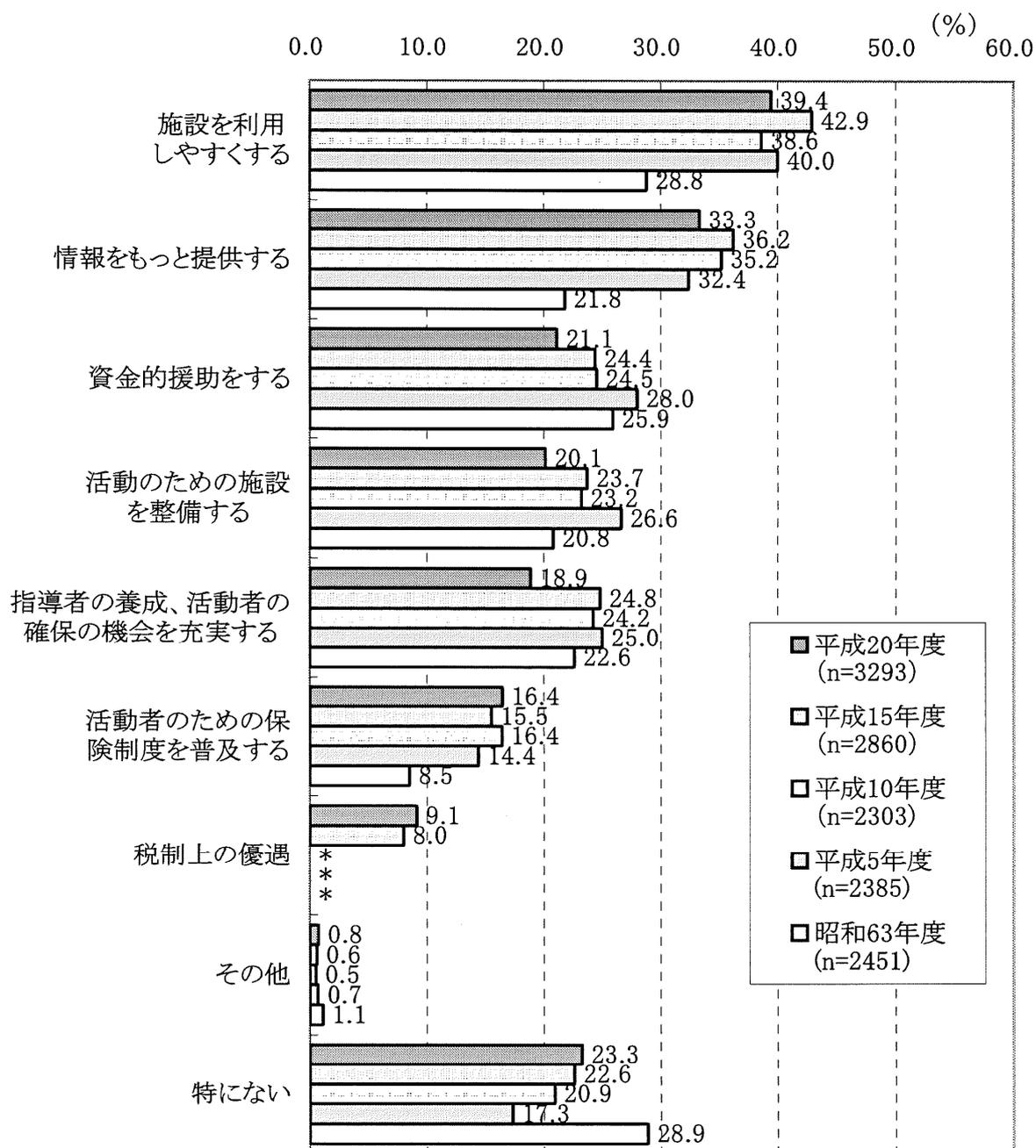
※2は、平成15年度までは、「実費程度の経費の援助があること」)

出典：平成20年度高齢者の地域社会への参加に関する意識調査結果／内閣府

(4) 高齢者が地域のための活動に参加する上での国・地方公共団体に対する要望

「高齢者が地域のための奉仕的な活動に参加する上で、国や地方公共団体に対して要望すること」について尋ねてみると、総数では「施設を利用しやすくする」が39.4%で最も高く、以下、「情報をもっと提供する」が33.3%、「資金的援助をする」が21.1%、「活動のための施設を整備する」が20.1%などとなった。

図表 12 国・地方公共団体に対する要望



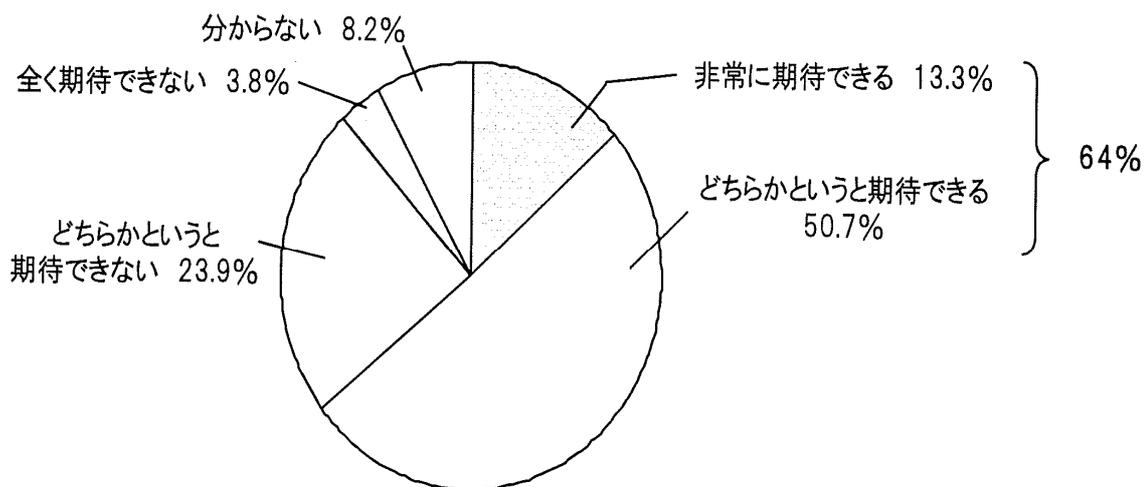
(注：*は、調査時に選択肢がないなどで、データが存在しないもの。)

出典：平成20年度高齢者の地域社会への参加に関する意識調査結果／内閣府

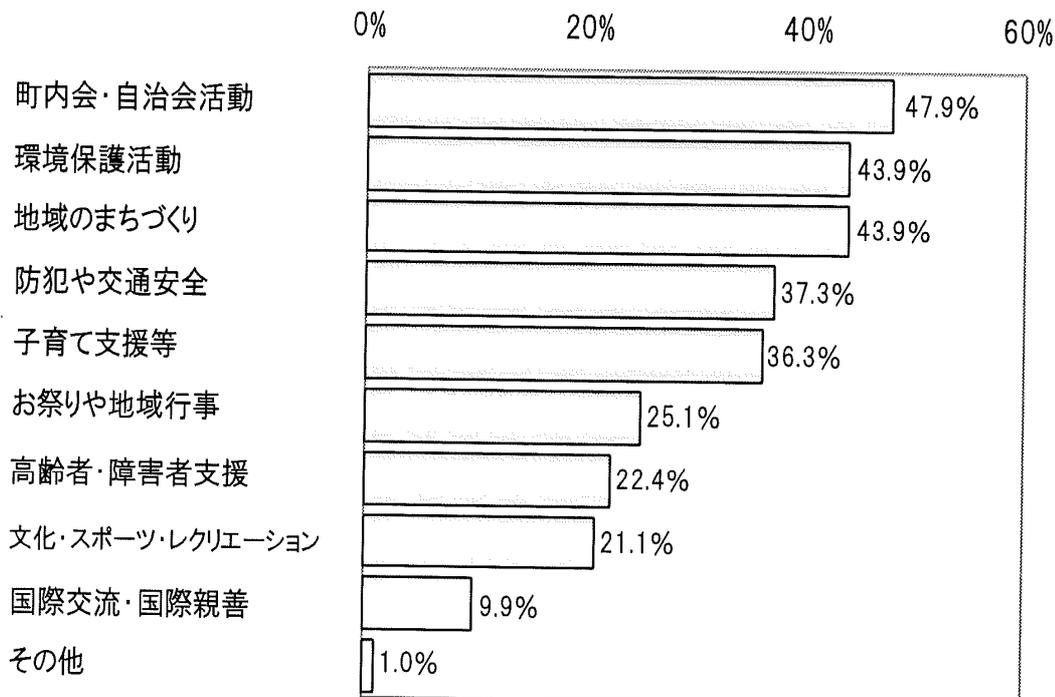
5 地域を支える高齢者への期待

- ① 都政モニターアンケートによると、多くの人々が団塊の世代を含めこれから高齢期（定年退職後、定年がない場合は60歳以降）を迎える人々に対して、地域活動や社会貢献活動での活躍を期待している。
- ② 具体的に期待する地域活動としては、町内会・自治会活動への回答が最も多く、続いて環境活動や清掃、地域のまちづくりとなっており、自らが住む地域を豊かにする活動に対して高い期待を寄せていることが分かる。

図表 13 これから高齢期を迎える人々に対する地域の期待



図表 14 これから高齢期を迎える人々に期待する地域活動



出典：「団塊世代・元気高齢者地域活性化推進協議会」最終報告書／東京都